

サッカークラブの応援がサポーターの交友関係にもたらす影響 —浦和レッズの女性サポーターを例に—

小澤 仁美

Jリーグにおいては、ホームタウン制がとられていること、毎週試合が開催されていることという地理的・時間的な密度の高さが、特定クラブのサポーターに新たな交友関係を形成する機会をもたらしていると考えられる。

そこで、本研究では、Jリーグの特徴である女性サポーターの多さに着目し、ライフステージの変化によって変質が生じやすいとされる女性の交友関係において、サッカークラブの応援を通じた交友関係の形成がどのような影響を持つものなのかを明らかにするため、その交友関係の形成方法や、質的・量的特徴について、浦和レッズの女性サポーターへのヒアリング調査をもとに分析を行った。

研究方法は、サポーターへ過去1年に交流をもった友人・知人の年齢・性別・居住地・知り合った契機やともに行った行動について尋ね、サッカークラブの応援行動によって生じた交友関係と別の機会が生じた交友関係との量的・質的な差異を考察するものである。

調査の結果、Jリーグクラブの応援行動によって得られる交友関係は、試合観戦や観戦バスツアー、インターネット、知人からの紹介などという多様な場面で生じていることがわかった。また、そこで得られた交友関係は、各人に異性や異世代のものとの交流を増加させることで新たな情報・刺激をもたらしたり、応援環境の整備を促進することで応援行動の拡大をもたらしたり、家族そろって行動する機会を増大させることでコミュニケーションを促進したりといった様々な影響を各人に及ぼしていることが明らかになった。

また、こうした友人とは、試合観戦で定期的に顔を合わせる機会が確保されていることから、応援を行わなくなれば関係性も絶たれるという脆弱性をもつ一方、応援行動を続けてさえいれば関係性を継続することは困難でないという様子がみられた。

しかし、一方で応援行動を通じて得た交友関係は、その他の契機で得られたものと比較して、それほど高い親密関係には至っておらず、サッカーを離れても個人的に親しく付き合うような関係に至っているというものはごく僅かであった。

しかし、年齢、性別、生活環境もそれぞれに異なり、互いに深い関わりやしがらみをもたないという関係性であるからこそ、日常生活と離れて純粋に余暇を楽しむものとして良好な関係を維持することが可能となり、交流をもつことが各人の生活により一層の楽しみをもたらすものとなっていると考える。

このように、就職や結婚、子供の成長といった転機によって交友関係が変質しやすい女性たちにとって、母でも妻でもなく一個人として形成し、余暇をともに過ごすことで互いに共感しあい、関係の維持も容易であるというサッカークラブの応援によって得られる交友関係は、そのものの余暇活動をより充実させ、生活をより豊かなものとさせるためにも非常に意義のあるものであると考える。